

令和 2 年 7 月 13 日現在

機関番号：21601

研究種目：挑戦的研究（萌芽）

研究期間：2017～2019

課題番号：17K19826

研究課題名（和文）プロジェクトリターン2017: 原発事故後に避難した精神科入院患者の帰還支援の試み

研究課題名（英文）Project Return 2017: Attempts to support the return of psychiatric inpatients who have evacuated after the nuclear accident.

研究代表者

後藤 大介（GOTOH, Daisuke）

福島県立医科大学・医学部・講師

研究者番号：30381370

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 4,900,000円

研究成果の概要（和文）：本研究において、私たちは強制避難の対象となった精神科避難転院者におけるきわめて高い標準化死亡比（Standardized Mortality Ratio：SMR）を示した。SMRとは、人口構成の違いを除去して死亡率を比較するための指標である。今回示されたSMRの増加への主要な要因は、多くの避難転院者が身体合併症を有していたことが考えられる。また、避難に伴う心理的、身体的負担もこのようなSMRの上昇に關与していると言えるだろう。この知見にもとづき、私たちは、これら社会的に脆弱な人々における災害急性期後への影響についてより注意する必要がある。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、精神科入院患者の避難転院における死亡率の高さを明らかにした。これは、首都直下型地震、東海・東南海・南海地震といった、今後発生が確実視される大規模広域災害における精神科入院患者の避難転院のあり方、および広域避難転院後の転帰を検討する際の貴重な資料となりうる。さらに、精神科患者のみならず、介護福祉施設入居者における広域避難の転帰を検討する際の参考資料にできるだろう。

研究成果の概要（英文）：In this study, we demonstrated that psychiatric inpatients evacuated from hospitals in the mandatory evacuation order area showed extremely high standardized mortality ratio (SMR). SMR is an index for comparing mortality rates by removing differences in population composition. It was considered that physical complications seen in most inpatients were possibly the chief cause of the marked increase in the SMR. Also, it seems reasonable that the psychological and physical burdens associated with evacuation elevated these inpatients' SMR. Based on this finding, we should be particularly cautious about susceptibility to post-disaster emergency periods among these socially vulnerable people.

研究分野：社会精神医学

キーワード：東日本大震災 広域避難 福島第一原子力発電所 精神科 避難転院 相双地域 帰還

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

東日本大震災に伴う福島第一原子力発電所事故による避難指示により、福島県相双地域では総合病院を含む5つの精神科病院が閉鎖した。結果として、700名を超える精神科入院患者が県内外の病院に避難転院することになった。

これら避難転院患者の転帰については、複数回の転院、死亡退院、避難転院先地域への退院、福島県内病院への再転院、福島県内地域への退院など多様であり、その全容は明らかになっていない。さらに、転院先病院によって避難転院患者の福島県への帰還や地域への退院の進捗には差異があり、患者とその家族、避難転院先病院および福島県の取り組みなど複数の要因が関係していると考えられるが、詳細な分析と検討は行われていない。

2. 研究の目的

本研究の目的は、福島第一原発事故による精神科入院患者避難転院患者の避難の実態を調査すること、及び、福島県外の避難転院先病院から県内への帰還や地域への退院の成否に係わる要因を調べ、避難転院患者の医療と処遇の改善に寄与することである。

さらに、本研究の意義は、原子力災害により広域避難を余儀なくされた多くの精神科入院患者の転帰をまとめ、記録しておくことは、わが国における社会精神医学および災害精神医学上の貴重な資料となる。さらに、今後とも起こりうる精神科入院患者の広域避難とその後の転退院における課題と必要な対策が明確になる。

3. 研究の方法

研究1：精神科避難転院患者転帰調査

福島県（保健福祉部）と福島県立医科大学の間で、個人情報取り扱いなど倫理的配慮を盛り込んだ共同研究に係わる契約を締結する。

福島県の保有する相双地域からの精神科避難転院患者789名の既存データによって追跡可能なものの全てについて転帰調査を行う。

結果を集計、分析し、精神科避難転院の実態を明らかにする。

研究2：県外避難転院患者の福島県への帰還および地域への退院における比較調査

県外避難転院患者の受け入れについて最多となった東京都において、とくに受け入れ数の多かった公立病院として東京都立松沢病院、さらに私立病院として多摩中央病院を代表2病院とし、これら2病院へ避難転院した患者の診療録を調査研究の対象とする。なお、平成25年から開始された福島県精神科病院入院患者地域移行マッチング事業により、都立松沢病院への避難転院者が約50名、多摩中央病院への避難転院者が約20名となっている。

調査に使用する調査票を作成する。調査票の構成は、避難転院患者受け入れ病院の情報および状況を記入する施設票と、避難転院患者自身に係わる情報および状況を記入する患者票とする。

都立松沢病院および多摩中央病院に出向き、質問紙（の施設票および患者票）を用いて調査する。

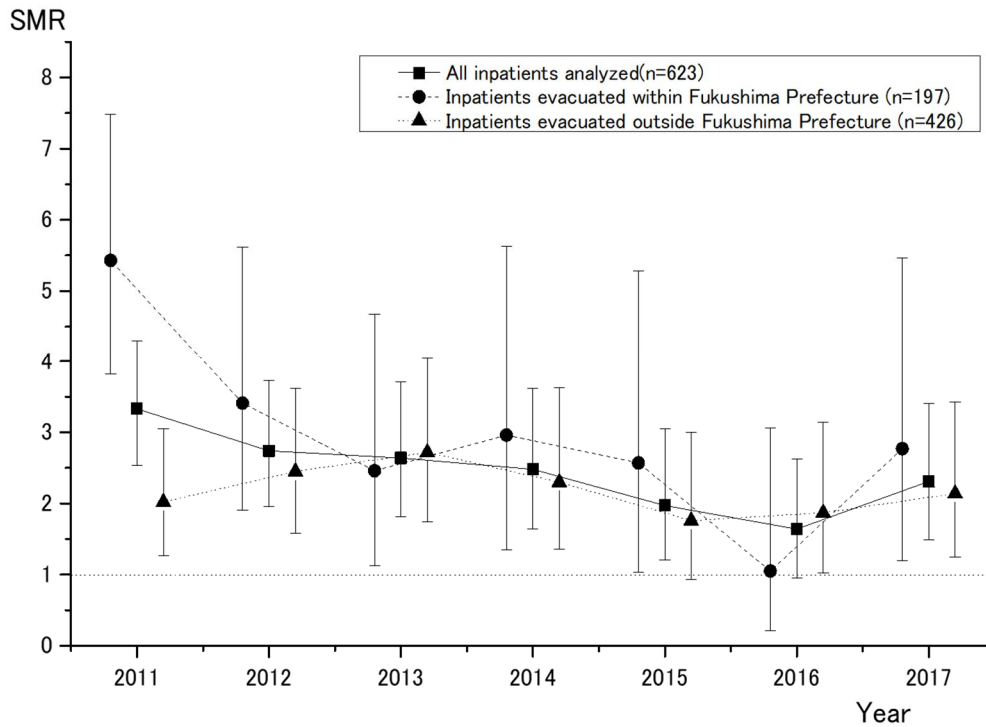
結果を集計、分析し、福島県への帰還および地域への退院に寄与した要因と阻害した要因を明らかにする。

4. 研究成果

研究1より明らかとなった、福島第一原子力発電所事故により強制避難となった精神科入院患者の死亡率について。

【方法】本研究は、福島県との共同研究とし、県より提供された該当患者789名（平均年齢=65.20±16.31歳）の年齢、性、災害時の入院先病院、避難転院先病院、および状態（生存または死亡）に係わるデータを用いた。なお、データには精神医学的診断は含まれていなかった。このうち、強制避難指示区域外で入院していた165名とデータが欠損していた1名を除外した計623人を対象とし死亡率を調査した。

【結果】この分析による主要な結果として、精神科避難転院者における2011年から2017年までの標準化死亡比（SMR）を得た。これらは、2010年における年代別死亡率（厚生労働省資料）に基づいて算出し、対象者全体623名と、福島県内への避難転院者197名、福島県外への避難転院者426名に分類して、SMRの経時変化を示した。県内避難転院者は、2011年のSMRが非常に高かった（5.43）。県外避難転院者においてもSMRは高く、その後両群のSMRは減少したものの2017年まで高水準で推移した。



【考察】SMRが高いことの主な原因として考えられるのは、これらの避難転院者には身体合併症があったこと及び避難に係わる精神的身体的負担である。さらに、2012年以後もSMRが高値で推移しているが、これについて、対象の避難転院者における低ストレス耐性が考えられる。今後とも起こりうる大規模災害への対応として、広域避難を要する際には、精神科入院患者の脆弱性に注意すべきである。

研究1および研究2について、現在までにそれぞれの調査結果をデータベース化しており、今後も引き続き解析を続けていく予定である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 後藤 大介
2. 発表標題 福島第一原子力発電所事故により強制避難となった精神科入院患者の死亡率について
3. 学会等名 第116回日本精神神経学会
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	國井 泰人 (KUNII Yasuto) (00511651)	福島県立医科大学・公私立大学の部局等・准教授 (21601)	
研究分担者	矢部 博興 (YABE Hirooki) (60210316)	福島県立医科大学・医学部・教授 (21601)	
連携研究者	安西 信雄 (ANZAI Nobuo) (10111494)	帝京平成大学・臨床心理学研究科・教授 (32511)	
連携研究者	各務 竹康 (KAKAMU Takeyasu) (20452550)	福島県立医科大学・医学部・講師 (21601)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
連携研究者	日高 友郎 (HIDAKA Tomoo) (70644110)	福島県立医科大学・医学部・助手 (21601)	